

プレスリリース

このリリースに関する連絡先:

窪田 修
ビジネスデベロップメント・マーケティング
アシスタントマネージャー
03 5157 2700
osamu.kubota@bakermckenzie.com

ベーカー&マッケンジー、オンキヨーとの戦略提携においてギブソン・ギターを代理

【東京発 2012年2月2日】ベーカー&マッケンジーの日米弁護士のクロス・ボーダー・チームは、米国の世界的に著名なギター・楽器メーカーであるギブソン・ギター・コーポレーション（以下、ギブソン）と、日本のオーディオ・ホームシアターのリーディング・カンパニーであるオンキヨー株式会社（以下、オンキヨー）の戦略的資本・業務提携において、ギブソンを代理しましたので、お知らせいたします。

本取引により、ギブソンは Onkyo USA Corporation（オンキヨーの北米・中南米市場向けの米国販売子会社）の発行済み株式の過半数を取得するとともに、株式と新株予約権の第三者割当増資により、オンキヨーの議決権の約 15%を取得して第二位株主となりました。本案件は1月4日に公表され1月20日にクロージングしました。

このたびの提携により、Onkyo USA は、KRK 社、Cerwin-Vega 社そして Stanton 社に続き、ギブソンのプロ・オーディオ部門の一角を形成することとなります。本提携の一環として、両社は高品質オーディオ家電製品の設計と開発を手掛ける香港合弁会社の設立も合意しています。本案件に関する詳細につきましては、[ギブソン社によるプレスリリース](#)（英語）をご覧ください。

本取引において、ベーカー&マッケンジーでは、東京オフィスのアレキサンダー・ジャンペル（パートナー）、角谷仁之（パートナー）及び小笠原治彦（カウンセラー）が日本法務の担当チームをリードし、日本の税務について小林真一（パートナー）が担当しました。一方、サンフランシスコ・オフィスのエメリー・ミッチェル（パートナー）が、同事務所のティファニー・ローズ（パートナー）、ジャスティン・ベリッチコ（アソシエイト）及びデビッド・ロスチャイルド（アソシエイト）とともに、本案件における米国法務を担当しました。

本案件について、アレキサンダー・ジャンペルはこう述べています。「複数の国にまたがる複雑な取引を、統合的なアプローチで支援するベーカー&マッケンジーの強みを存分に生かすことができたと思います」

またエメリー・ミッチェルは、「このたびの取引は実に複雑であり、かつスピードを要求されるものでした。ギブソンにとって戦略的に非常に重要な取引である本件において、同社をサポートできたことをとても喜ばしく思います。本提携が両社にとって多大な成果となることを祈念しています」とコメントしています。

- 以上 -

ベーカー&マッケンジーについて

ベーカー&マッケンジーは、42カ国に70オフィス、3,800名を超える弁護士とその他のプロフェッショナル及びスタッフ5,800名を擁する国際法律事務所です。1949年の設立以来、各国現地の言語及びビジネス環境に対する深い理解に基づく高品質のサービスを提供する法律事務所として知られています。2011年6月30日決算期における収入は、22億7000万米ドルを超えました。ファームのエグゼクティブ・コミッティのチェアマンは、エデュアルド・レイテイが務めています。

www.bakermckenzie.com

東京青山・青木・狛法律事務所 ベーカー&マッケンジー外国法事務弁護士事務所（外国法共同事業）は、ベーカー&マッケンジーの東京事務所として1972年に開設されました。日本法に関する卓越した知識、経験とともに、グローバル・ビジネスに関する実績とノウハウを兼ね備えた外国法共同事業を行う法律事務所として、日本最大級の規模を有しています。当事務所は、ベーカー&マッケンジーのメンバーファームとして、国内外の金融法務、M&A、企業法務、独占禁止法、大型プロジェクト、知的財産、国際税務、訴訟・仲裁、労務、環境、製薬、不動産関連等について、総合的かつ専門的な法務サービスを提供しています。

www.taalo-bakernet.com